

## 文京区リサイクル清掃審議会第1回廃プラスチック検討部会 会議録要旨

I 日 時 令和2年7月6日(月) 午後3時00分～午後5時05分

II 場 所 文京シビックセンター24階第1委員会室

### III 出席者

【学識経験】 南部和香(部会座長)

【委 員】 永瀬智江子、阿部貞二、小西孝蔵、村田重子、浅野千津子、小塚智子、篠木昭夫

【幹 事】 八木資源環境部長、村田文京清掃事務所長、村岡リサイクル清掃課長

【関係者】 栗原(改定支援委託事業者)

【傍聴者】 2名

### IV 配付資料

(事前送付)

- ・廃プラスチック検討部会資料第1号 プラスチックごみの削減の推進(案)

(机上配付)

- ・参考資料-1 プラスチック製容器包装分別収集の環境負荷・コスト評価
- ・参考資料-2 再商品化手法別の二酸化炭素排出量の比較
- ・リーフレット 「リサイクル推進協力店」

(閲覧用)

- ・冊子「文京区一般廃棄物処理基本計画改定に係る基礎調査報告書(令和2年3月)」

## V 会議録要旨

○南部座長

開会の挨拶

定員数の確認、委員8名出席で審議会成立

人事異動による新任幹事の紹介

○村岡幹事

就任の挨拶

配付資料の確認

○南部座長

部会の取扱

会議録作成のための録音の了承

HP公開の了承

○村岡幹事

資料第1号の説明

○南部座長

(1)～(7) 順番にご意見を伺いたい。

(1) 計画の背景

○浅野委員

プラごみ回収が進まないのは費用の点がある。アンケート調査の結果で費用対効果を考えると難しいところだと思う。

皆様のご意見を伺いながら自分の考えも整理していきたい。

○小堺委員

海洋プラスチックごみを考えると絶対に削減が必要。化石燃料を使い続けている限り、プラスチックがなくなったとしても、原料が残り、それは燃やしていくしかないと考えたと難しい。

実際、買わないようにしても買わざるを得ないほどプラスチックはある。その辺はどうしたらよいか。

○篠木委員

東京という大都会であることを踏まえて、分別収集を考える。(1)の背景を念頭に置きながら(2)以降についても考えていきたい。

○村田委員

昨年の大阪サミットで、2050年までに0にすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有されたとのことだが、今回のコロナの影響でこの計画に変更があるのではないかと。二酸化炭素削減効果が最も高いのはケミカルリサイクルということだが、お金がかかる。天秤にかけると難しいことだと思う。

○小西委員

プラスチックは清掃工場でサーマルリサイクルしているが、文京区は清掃工場がないため活用できない。サーマルリサイクルは熱を出してエネルギーとして利用している。例えば温水プール。

○阿部委員

7月1日からレジ袋有料化が始まった。紙袋有料化の百貨店もある。古紙事業者としては汚れた袋を出される懸念がある。

○永瀬委員

プラスチックごみの少ない新しいライフスタイルとあるが、すべてがプラスチックで包まれていて、今の生活からプラスチックは絶対に外せない。プラスチックはやはり非常に便利。海で分解できる製品の開発が大切。豊かな生活をするにはコストがかかる。コストからこの問題を考えるのではなく、いかに環境に優しい生活にしていくかが大切。

○南部座長

そのあたりは非常に難しいところ。持続可能な事業をやっていくためにはコストを考えざるを得ない。

この先目標値の設定があるので、中長期的にどういう取組ができるか、日々何ができるのか皆さんと一緒に考えていきたい。

## (2) 基本指針

### ○浅野委員

対処療法的に考えるのではなく発生抑制が基本だと思う。

レジ袋削減の理由を理解すること。年齢層などそれぞれの方がどのように捉えているのか。

### ○小堺委員

プラスチックはどこにでもあり買わざるを得ない。エコバッグもプラスチックで布のものはあまり見ない。一週間ためたトレイでレジ袋がいくつできるのか。一番簡単で文句の出ないところでレジ袋といわれているのではないか。

ライフスタイルの変換を流通まで絡めてしまうと、何をやめたらよいか何からやったらよいか、まるで見当がつかない。

### ○南部座長

後ほど具体的な施策が出てくる。ライフスタイルの変換等で消費者側が何を望むか意見をまとめ明らかにすることで、事業者側がそれを受けて生産者側も考えるきっかけになると思う。

### ○篠木委員

プラスチック問題を解決するにはリデュースが基本はその通りだと思う。なぜプラスチックが発展してきたのか、どういうものなのか、プラスチック問題の本質の言及があってもよいのでは。

### ○村田委員

レジ袋有料化でエコバッグ利用率が上がっている。

プラスチックを減らすことが大切だが、衣料にも化学繊維が使われていて、洗濯で流れていく。昔ながらの植物・動物由来のものに変えていく、そういうことを大切に考えていく生活習慣にすることが必要と思う。

○小西委員

レジ袋が有料になったが、ただお金を取るだけの話になっているようで、納得いかない人もいる。他社がやるから自分もやるという考え方ではだめ。海洋汚染に効果があるなら結構な話だが良く分からない。

○阿部委員

レジ袋有料化でエコバッグの生活に慣れていかねばならない。

○永瀬委員

プラスチック使用を減らすライフスタイルの変換とあるが、今言われているのはレジ袋のことばかり。ゴミを捨てるのにプラスチック袋でなければ、何で捨てるのか。これだけプラスチックに囲まれた生活をしていて、レジ袋を減らしてもプラスチックの削減にならないと思う。

○南部座長

この点に関しては事務局からも伺いたい。

○村岡幹事

レジ袋有料化は国で策定されたプラスチック循環戦略のうちの1つ。プラスチック削減の第一歩という位置付け。

国で策定する上で、環境省、消費者庁、財務省、文部科学省、厚生労働省等連名で出しているプログラムとなる。今後も色々な省庁をまたがって施策が展開される。区としても可能な限り施策を考えて対応していく。

### (3) 目標値の設定

○浅野委員

レジ袋を今まで無駄にしたことがないので、有料化になったらゴミをどのように出すのかを考えている。

消費者もよい商品なら買うという風に考えていかななくてはいけない。

2030年に目標をクリアするためには、国と事業者と共に大幅なプラスチックの削減に取り組まなく

ては難しいのではないかと。

○小堺委員

目標はあった方がよいが、自分の生活の中で何%の削減はどれ位なのか分からない。プラスチックは自分が作り出せるものではないので、もっと上流で考えてもらわないと難しいと思う。

○篠木委員

25%の削減が大変なのか簡単なのか、数字だけではどのように受け止めればよいか分からない。減らす努力はしなくてはならないが、大変なのか楽なのか想像がつかない。マイクロプラスチックをゼロにする国際的な約束事などの状況を踏まえて、この数字を受け止める上で参考になるものがあつたら事務局の考えを伺いたい。

○村岡幹事

目標値の設定の仕方は、国が定めた25%を踏まえて文京区も25%に設定している。調査により1人当たり59.3gを排出している。10年後には44.5gにしていく方向で考えている。数値だけではなくレジ袋やラップ、食品トレイ等どれくらいで何gか等の具体的にイメージできるものをあげて修正していきたい。計算上では、レジ袋削減だけでも効果があると出ているので、表現の仕方を工夫したい。

○村田委員

レジ袋が有料化になったのは一番分かりやすいからであろう。レジ袋はごみ捨てによいというが、汁の多いごみは紙やぼろきれで包みポリバケツで捨てればよい。自宅近辺の集積所では7件のうち4件ポリバケツである。ごみ収集は袋の方が収集しやすいのか伺いたい。スーパーやコンビニが流行りだしてから何でもプラスチックに入れるようになり増えたと思う。

○南部座長

消費者が望んだのでそのようなライフスタイルになったところがある。私たち消費者が賢くなると、それに合わせて変わっていく可能性がある。

ポリバケツでの可燃ごみ回収の現状について伺いたい。

○村田幹事

ポリ容器で出すことは可能。収集後に容器を回収し、管理する手間がかかるため、ほとんどの人が手軽なビニールを利用している。

収集にかかる時間はポリ容器もビニールも変わらない。

○南部座長

生ごみを直にポリバケツに入れて捨てる人もいると思うが、洗浄とかのコストはどうなのか。

○村田幹事

収集については、ポリバケツの中身を空けるだけなので、コストは違いがないが、きちんと水切りすることが大切。

○南部座長

ポリバケツを使えることを知らなかった。

○小西委員

ポリバケツはひっくり返ったりしないか。安定性が問題。またポリバケツは狭いところだと難しいのでは。

○阿部委員

店にはたくさんプラスチックが並んでおり、消費者の判断だけでは、法的なものがないと劇的に変わらない。

○永瀬委員

この数値は無理と思う。ポリバケツもプラスチックで、いったいレジ袋何枚分なのか。やはり袋の方が便利だから浸透している。生活の中からプラスチックを排除するのではなく、環境によいものを作り出すことは、今の科学でできないはずはない。昔の生活には戻れない。無駄も生活に必要なからあるのであり、排除だけでなく、進歩的な形に持って行ってほしい。

○南部座長

環境によいことは我慢が必要と思いがちだが、我慢しない中で見つけていくことが大切。

どういった取組が無理なく、持続可能な習慣化ができるか、アイデアを合わせて考えていく必要がある。

○篠木委員

この目標達成のためには、これからリサイクルをするものをある程度決めていかなければできない。

第2、第3弾で何をやるのがかなり重要になってくるのでは。今後どうしようとしているのか分からない。

○南部座長

まさにこの部分のご意見を聞きたい。

現在は消費者が物を購入するとそこにプラスチックが付いてくる。海外ではシャンプー等の量り売りがあり、日本でも需要があるのでは。中身だけを買うことでプラスチックの削減が可能。消費者だけでは難しいが、そういう希望を表に出すことが大切と思う。

○永瀬委員

昔は容器を持って買物に行ったが、現在ではものすごい人件費と場所が必要で、それが無理だから個別容器になっている。特殊な製品ならともかく今の時代にそぐわない。詰め替え商品ができただけでも進歩と思う。

○南部座長

時代が戻っているところもある。日本でできるかは別問題と思うが、選択肢としてあるとよい。日本でも行っているメーカーもあり、増えていけば変わっていくかと思う。

○小西委員

昔は豆腐を鍋で買いに行っていた。



#### (4) 進捗管理

##### ○浅野委員

令和7年度に中間見直し、前年度にアンケート調査があるということだが、レジ袋削減については今年から始まったので変化があると思うが、精力的に何かを打ち出していないと大幅な削減効果はないのではないか。

##### ○小堺委員

プラスチック製品とは何が含まれるのかが分からない。ビニール袋やラップはどうなのか。それを知らせるのが大切と思う。

##### ○南部座長

そのあたりの広報はやっていただけと思う。

##### ○篠木委員

令和2年度はレジ袋の効果を期待でき何%になるか楽しみだが、令和3年度は何をするのか、PRだけなのか、レジ袋削減の普及を続けるのか、参考に出してほしい。

##### ○村岡幹事

今年度からレジ袋有料化がスタートしたが、ある程度時間をかけて続けていく。来年以降も継続してプラスチック排出削減を行う上で、普及啓発活動を行っていく。

また、事業者立ち入り調査を行い、指導啓発、削減の呼びかけを行っていく。

仕組みづくりを東京都と連携しながら行っていきたい。

##### ○篠木委員

レジ袋削減はどれくらい効果があったか来年度に結果が出るか。

##### ○村岡幹事

中間年度の前年度に組成分析調査を予定している。来年度は調査の予定を立てていないが、ある程度の全国的な傾向はつかめると思う。

○篠木委員

ざっくりでも効果が分かると面白いし、今後の色々な参考になると思う。色々な数値が国も含めて出てくることを期待したい。

○村田委員

テレビの情報だが、あるスーパーでは100万円の削減効果があるとのこと、規模にもよるがそれ位の削減はできるのでは。

アンケートした区民は何人か。昨年度と令和6年度と同じ家庭、同じ人にアンケートするのか。

○村岡幹事

昨年度無作為抽出で2,000通発送、有効回答数726票、有効回収率37.1%となる。次回令和6年度もおおむね同じ規模で無作為に行う予定。

○南部座長

なるべく多くの人に答えてもらった方がよい。

○小西委員

アンケートに関して、誰が買い物に行くのか、その家族から一人なのか誰が回答するのか判断するのが難しい。

○南部座長

進捗管理は、中間でどういう効果が出ているのか検討するもの。

アンケートについては、ランダムでサンプリングすると全体の傾向を把握することができる。統計的には望ましい方法である。

あまりに偏った内容の場合は考慮することになるが、ある程度誠意を持った回答であれば使えるデータとなる。

○阿部委員

区民に啓蒙活動をしていると思うが、具体的にどのようなものをやればよいのか見えた方がよい。

○南部座長

進捗の成果を上げるためには、削減の目標、指標等を示す必要があるかもしれない。

○村岡幹事

進捗状況を把握する指標の検討をしたが適切な指標が見つからなかった。目標値の設定をし、中間年度の見直しでどのような指標が見つかるか改めて検討していきたい。

○永瀬委員

区からごみの分別に関する資料が自宅に来るが、捨て方等が詳しく記載されている。廃プラスチックについても区で色々活動していると思うが、アンケートでどのくらい認知されているか判断でき、区の取組を評価している。

○南部座長

心強いサポート。そのような方が増えればアンケート回収率も上がりよい傾向になると思う。

○村田委員

アンケートは、文京区の人口 22 万人で 2,000 通発送し、726 の回答数は統計学的にどうなのか。発送数をもっと多くてもよいのでは。

○南部座長

誤差をプラスマイナス 2%とするには回答数が 2,000 以上あるとよい。

○村岡幹事

アンケートの際に改めて検討する。

#### (5) 容器包装プラスチックの分別収集について

○浅野委員

プラスチック封筒が増えている。中身の広告が見えてインパクトがある。世の中と事業者が逆行している流れがある。

○小堺委員

容器包装プラスチックが何を意味するのか分からない。新宿のスーパーではポイントになる回収の仕組みを取り入れている。

プラスチックは捨てるものから作っているのととても安い、太刀打ちできない。便利で安いものをなくすにはどうしたらよいのか。

海に流されたプラスチックで野生動物が被害を受けている映像などインパクトがあるものを活用してはどうか。海の中は見えないので気がついてもらえない。

○南部座長

どのように情報発信していったらよいのかにつながっていく。

○篠木委員

ペットボトルは成功していると考えている。容器包装プラスチック分別収集はアンケート結果に出ている通り経済的問題も大きい。

経済原則も考慮し、今後容器包装プラスチック分別収集を成功するためには、ペットボトルのように簡単で大量に出るものでないと難しいのでは。

容器包装プラスチックがどのようなものか分からない。容器包装を取ってしまい、プラスチックを分別収集した方がよいのでは。

国レベルで取り組めることはトレイしかないと思う。今後 10 年間で何とかしてトレイをやってほしい。トレイがよい理由は、量が多い、きれいにするのが簡単。スーパーだけでなく区が協力し小売商店なども参加すれば相当な量が集まる。

ペットボトルと同じくらい生活に密着したトレイを扱うことで大変なPRになると思う。

○村田委員

プラスチック容器を地域活動センターなどで回収していることが周知されていない。

容器と包装は別なのか、容器包装プラスチックか判断できない。

○南部座長

容器包装リサイクル法の関連もあり、容器と包装を別にするという方向性ではないと思う。容器包装を含めてご説明をお願いしたい。

○村岡幹事

トレイ・カップ麺容器・お菓子の袋・肉や野菜が乗っているもの・洗剤などのボトル・卵パックなどがある。

○村田委員

ほとんどのものが容器包装になる。

○南部座長

クリーニングのカバーはどうか。

○栗原（関係者）

容器包装の定義は容器包装リサイクル法で決まっている。

商品の容器や包装。商品が最初から包まれているもの、ラーメンの袋やシャンプーのボトル等が容器、包装は後からお店で提供するもの。かなり多くのもものが対象となる。

厳密にいうと、商品に対する包装なので、クリーニングのカバーなどサービスに対する包装や、無料の景品の包装は容器包装リサイクル法の対象にならない。

○南部座長

同じものでも経路が違えば容器包装にならないことがあり、かなり難しく混乱のもとになる。やるときは丁寧な説明が必要。

○小西委員

ごみ問題で、費用に見合った温室効果ガス削減の効果が得られるかどうか。容器包装プラスチック分別の是非については検討すべきが半数を占めている。

○南部座長

この半数とは、分別収集の是非についての回答で、まだ実行に移してはいない。

○阿部委員

ここでいう容器包装プラスチックの入札はペットボトルが含まれるのか。

○村岡幹事

ペットボトルは別の入札になる。

○阿部委員

行政は収集運搬の費用を負担するということか。

○村岡幹事

はい。

○永瀬委員

分別収集をきちんとするのが一番の課題と思う。

海のごみをなくすのは個人の問題で、自分たちが焼却・分別をきちんとしていればあのようなごみは出ない。費用のことがあるが、地球を守るためにはきちんとしなくてはならない。プラスチックはなくてはならない存在なのでそれをきちんと廃棄するのが一番。

○南部座長

分別収集をやることになったら徹底してやらなくてはならない。

#### (6) 具体的な施策

○浅野委員

区の率先したプラスチック削減の取組について、具体的な内容を伺いたい。

○村岡幹事

マイボトルの持参、広報・掲示板による呼びかけ、ペットボトルの販売中止の検討、マイ箸・マイストローの持参等だが、まだ浸透しきれていない。

○小堺委員

プラスチックの定義自体が難しい。

回収の拠点が増えるとよい。スーパーで扱ってくれて大変ごみが少なくなった。行きやすい所に拠点があるとよいがコストがかかるのだろうと思う。

○南部座長

見えないコストがある。いかに拾うかが回収率を上げるポイントになると思う。

○篠木委員

容器包装プラスチック類がどのような経過をたどって、どのように処理されているのか研究し、区民にPRするのが極めて大事なのではないかと。

容器包装の実態が分かっていない、リサイクル処理とはどうやるのか等、消費者の啓発のためにもそういう取組を取り上げてほしい。

○村田委員

プラスチックは現在サーマルリサイクルで燃えるごみになっている。プラスチックの分別回収は、拠点回収の拡充ということで、現在の資源回収のペットボトル、びん、缶に容器包装プラスチックを追加するのか。

その先の問題として、ケミカルリサイクルが一番よいが、お金がかかるということでどうなのか。

○小西委員

普及啓発というのは実際の現場を見るのが一番よい。情報発信の1つとして映像などがあるとよい。百聞は一見に如かず。

○南部座長

確かに情報発信の1つとしてイベントの時に上映する等、絵的に分かるものがあるとインパクトがあり、集客効果もあるかもしれない。

○阿部委員

拠点回収拡充の検討とあるが、具体的にはどこに増やすのか。

○村岡幹事

現在、公共機関を中心に拠点回収として設定できないか検討を行っている。

○永瀬委員

区が主催する会議におけるペットボトル飲料の自粛ということは缶ならよいのか。

○村岡幹事

今のところ自粛を求めているのはペットボトル飲料なので、缶は要請していない。

○永瀬委員

分別回収の徹底をどんどん進めてほしい。

#### (7) 区民・事業者・区の行動計画

○浅野委員

過剰包装など消費者が求めているものをもっと発信していく。窮屈なことではなく事業者側も経費が削減でき、処理も楽になること等、発想を変えると楽しくなるのでは。

拠点回収を増やすのは区の施設でないと難しいのか。スーパー等いつも買物する場所にあるとよい。

○村岡幹事

拠点回収も色々種類があり、ほとんどが公共施設だが一部民間に協力していただいている。民間への呼びかけは継続してやっていきたい。

○小堺委員

あまりヒステリックになるのも良くない。コンビニのスプーンなどのような使わないで済むものを断るのは可能だが、プラスチックを全く使っていないものはそもそもないので、そのあたりの兼ね合いを大事にしたい。

○南部座長

必要なものとそうでないものを分けてやっていけるとよい。

○篠木委員

プラスチック容器を使わないのは難しい。現実問題として商品の値段、持ち運びなど利便性も含めてできるのか。



飲み物はびんや缶となっているが、やはりペットボトルはだめなのか。リサイクルのレベルで考えたらペットボトルは優等生だと思う。

適正に廃棄という表現は強すぎる。適正に処理でよいのでは。

化石資源由来のプラスチックを使用しない製品とは何か。分かりやすく表現した方がよい。

○南部座長

適正に廃棄という表現は、区民は処理できないので、廃棄でよいのでは。

○村田委員

区の率先した取組の推進について、シビックセンター内でまだ取り組んでいない店舗があるので、周知した方がよい。

コロナの問題で持ち帰りに対応する飲食店が増えたが、持ち込み容器や紙容器などに詰めてくれる店舗もあり、そういうことも検討していく必要がある。

プラスチックのお弁当容器は汚れていると回収してもらえないのか。

○南部座長

汚れている紙容器はごみとして処理する。プラスチックの場合もすごく汚れているものは、洗剤を使って洗うとかえって資源を使うことになる。汚れの取れないものは資源化のコストがかかるのでそのまま燃えるごみとして処理してほしいとなっている。

○小西委員

文京区の姉妹都市と共同で小学生の教育など何か行ってはどうか。

○南部座長

そのような新しい取組も、子供たちの環境教育などで考えるとよいと思う。

○阿部委員

マイクロビーズ不使用製品とはどのようなものか。

○村岡幹事

外見からはマイクロビーズが使われているかは分からない。

マイクロビーズが使われていない商品が分かりやすいように具体的なイメージをつける等工夫をしたい。表現すること自体検討したい。

○小堺委員

歯磨き粉に記載があってメーカーに確認したが使われていなかった。歯の研磨に使われるものなのか。

○南部座長

洗顔料や歯磨き粉の研磨剤に使われている。

○永瀬委員

使い捨てプラスチックをプラスチック以外の代替えにするのが一番重要なこと。環境によい商品を作っていくのが一番大切になっていくと思う。バイオマスプラスチック等、今できている環境によい商品にどんどん替えていく。

プラスチックごみが散乱することがないよう適正な廃棄をすることは、私たち1人ひとりが一番考えなくてはならないことと思う。

○南部座長

海洋まで届いていることを考えると、そのあたりが大切と思う。

○南部座長

今回の内容を整理し、次回7月30日第7回審議会で報告できるようにしたい。

○村岡幹事

部会の会議録送付の案内

修正や追加の申し出の依頼

座長一任の了承

○南部座長

閉会の挨拶